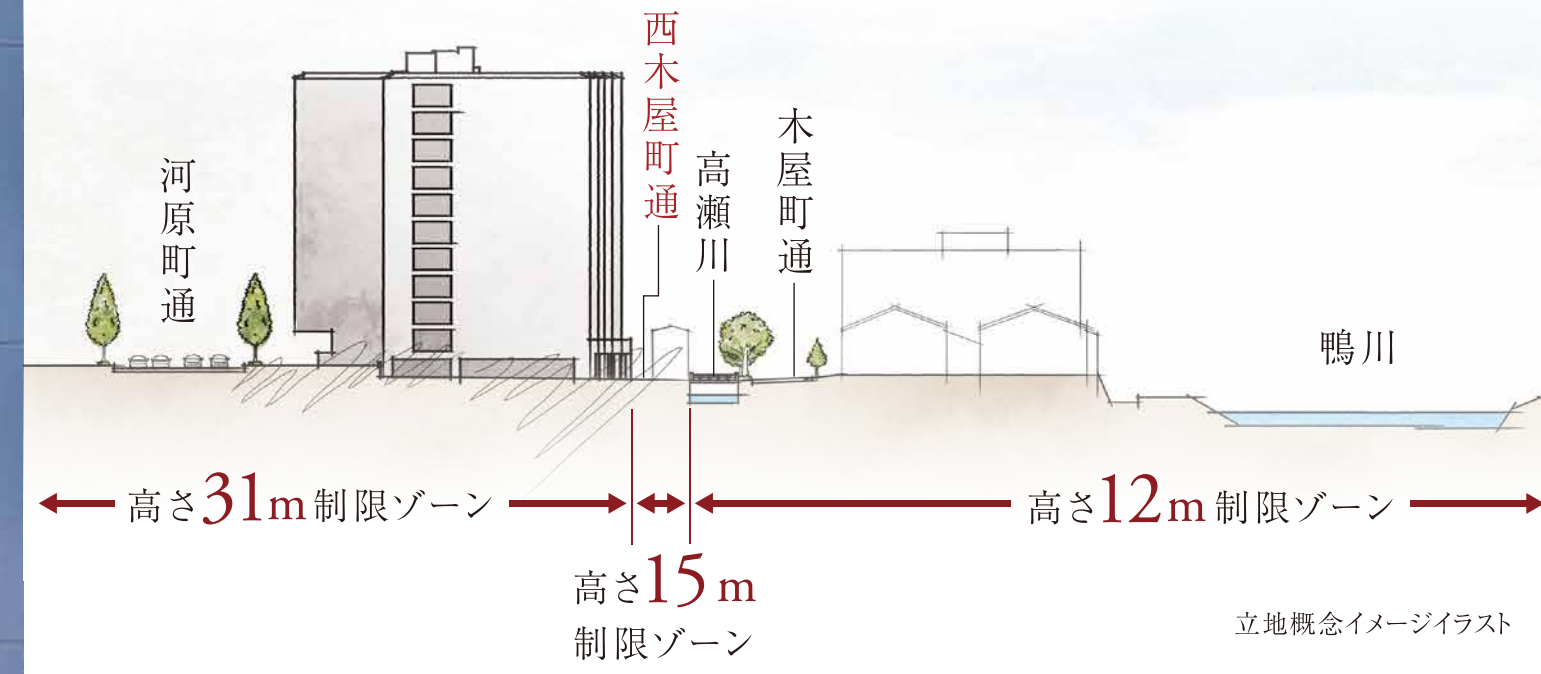


# 京都・最高層31mマンションを 街並みと共存させる



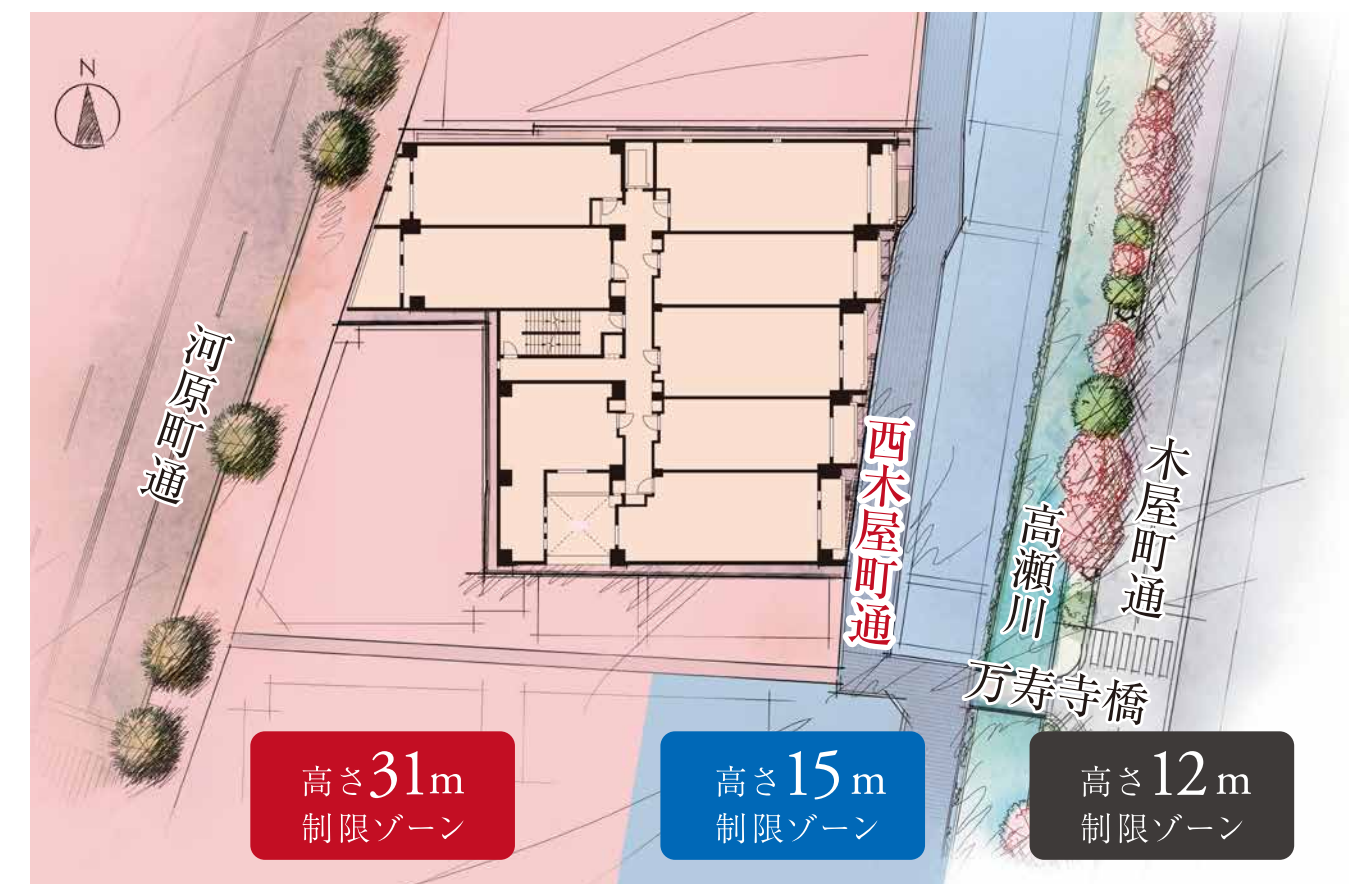
## 1 建物の圧迫感が目立つ 中心市街地・最高層31mエリア

本計画は京都の中心地において最も高さ規制が緩和されている31m規制エリアに位置し、大きなボリュームの建築が可能であるため京都の街並みへの「圧迫感」が顕著になる懸念があった。



## 2 鴨川界隈からの視認性が高い 15mエリアとの結節点

31m規制エリアと15m規制エリアの結節点にある本計画は、風情豊かな高瀬川、鴨川界隈からの視認性が高く、京都の景観形成において重要な立地であると考えた。

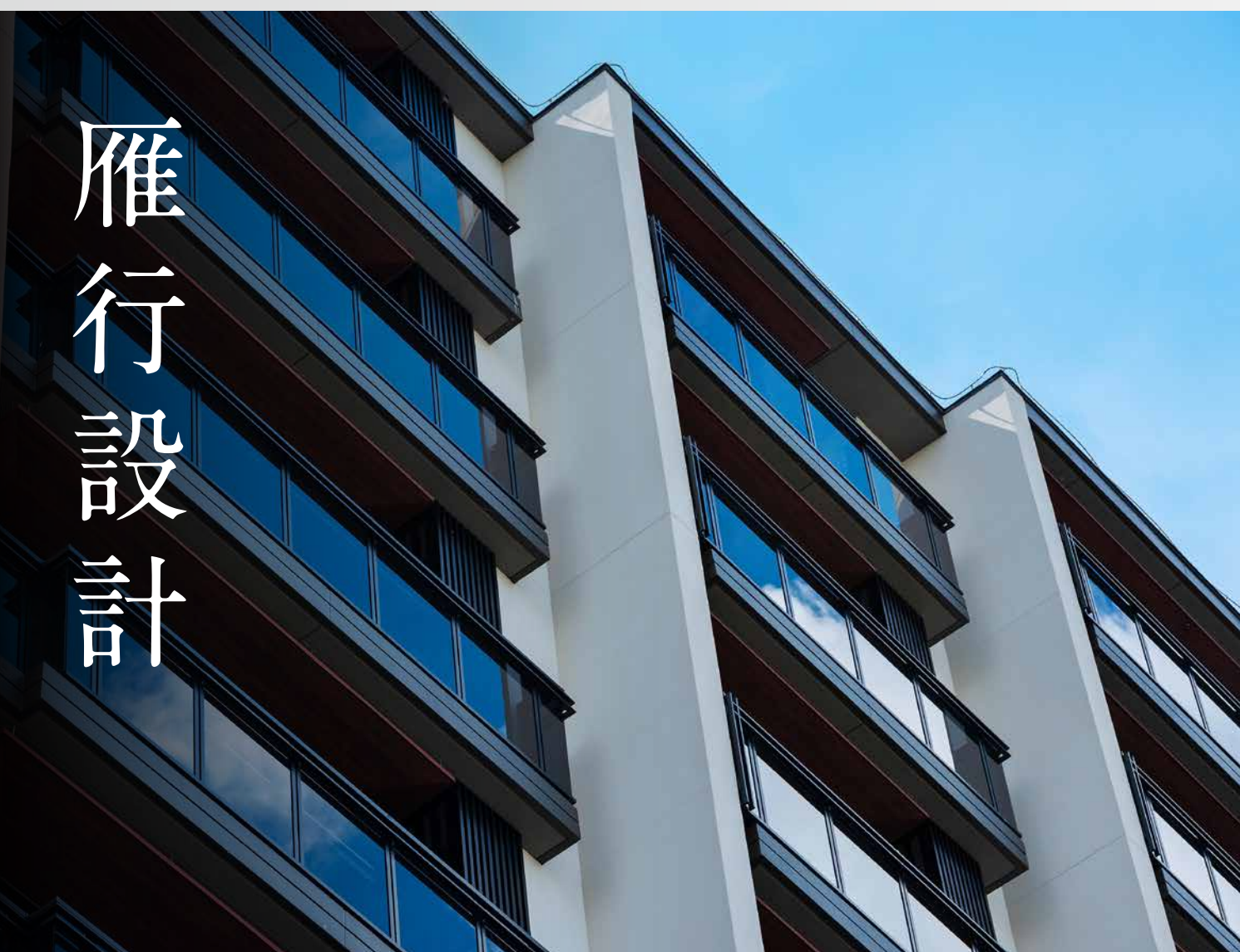


## 3 観光客が訪れる西木屋町通 灯りが不足する路地裏

敷地東側の西木屋町通は、夜になると暗い印象の路地裏である。近年は外国人などの観光客の姿も見られることから、歩行者および居住者双方の安心に配慮する必要があった。

### 解決ポイント

#### 1 「圧迫感」の軽減



雁行設計

東側の建物形状を1スパン毎に雁行配置とすることで分節し、周囲に与える「圧迫感」を軽減。各スパンは、周辺(京町家等)のスケールとも調和させ、京都の街並みに共存させた。

#### 2 街並みと「調和」



斜め軒裏

町家・寺院建築を参照した木目調のパルコニー天井で京都の街並みと「調和」させた。鴨川界隈から臨んだ遠景からの美しさはもちろん、「斜め形状」とすることで地上から見上げる美しさにも配慮した。

#### 3 「安心感」の創出



路地裏を灯す

路地裏を安心して通行できるように、格子から灯りが漏れる設計に。格子により、路地との緩い結界性を設け居住者のプライバシー確保にも配慮。歩行者および居住者双方に「安心感」をもたらした。